

エースで4番北口が柱

一戦必勝

八学光星 2年ぶり聖地へ

—上—

第98回選抜高校野球大会（センバツ）が19日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開幕する。本県からは、昨秋の東北大会準優勝の八戸学院光星が2年ぶり12回目の出場を決めた。ナインは紫紺の優勝旗奪取を目標に掲げ、大会初日、崇徳（広島）との初戦に挑む。八学光星の戦力やセンバツまでの歩みを紹介する。

◇ ◇

守備重視のメンバーで臨んだ昨秋の県大会は、延長十一回タイブレークにもつれた八工大一との決勝など、全5試合中3試合が1点差での勝利。エースで

重いバット振り打撃強化



黙々と打撃練習に励む八学光星の選手たち。2月中旬、八戸市

4番の主将北口のほか、右腕の った。尾形と秋元、左腕中嶋が粘投し、一方、メンバーを入れ替えて接戦をものにする勝負強さが光 打撃面を強化した東北大会で

八学光星の昨秋の公式戦打撃成績

試合数	得点	打数	安打	本塁打		
				二塁打	三塁打	本塁打
9	47	302	83	13	2	4
打率	打点	三振	四死球	犠打	盗塁	塁
.275	44	60	45	20	6	

は、準決勝までの3試合で31安打と攻撃力が際立った。中でも3番新谷翔は、初戦の一関学院（岩手）戦で3点本塁打を放つなど計8打点と躍動。双子の兄の新谷梨も好機での長打力が光った。下位の佐々木は初戦から2試合連続で、上位から下位まで切れ目がなかった。投げては北口が初戦から3試合に先発。最速143km/hの直球と球速差が約30km/hある変化球で打者を惑わし、準決勝の聖光学院（福島）戦で完封するなど奮闘した。

ただ、チームが目標としていた明治神宮大会出場を懸け臨んだ決勝は、花巻東（岩手）に2-3で惜敗。仲井監督が「先を見据え、北口以外の投手に経験させたかった」と先発マウンドに送り出した及川が4回3失点で降板すると、打線は相手投手陣の好投を前に9三振、13残塁とつながり欠いた。北口は自分たちはまだまだで、全国の舞台では通用しないんだと痛感した」と敗戦を振り返る。

今季の八学光星は北口が投手の柱。今大会から各校が使用を制限できる指名打者（DH）制が導入されるが、仲井監督は北口が中軸を打っているの、使えないかなと思っている」と言及。北口以外の投手が登板した際は「いろいろな形で起用していきたい」と語る。

ナインは実戦形式の練習がでない冬場、ウエートトレーニングで肉体を強化。闘争力を鍛えるトレーニングも取り入れたほか、打撃練習では一人一人が本番を想定しながら打席へ。マシン相手には重い金属バットを使用し、切れのあるスイングを目標としている。新谷翔は「投手のレベルが上がる甲子園で力負けしないよう練習に取り組んできた。気持ちをしっかりつけてチームを勝たせるバツティングをしたい」と気合を込める。

実戦から遠ざかっているだけに「大会期間中にも成長する選手が出てきてほしい」と指揮官。一冬を越えたナインに期待を寄せた。チームの合言葉は「一戦必勝」。成し遂げた先に悲願の全国制覇が見えてくる。

※この連載は2回続きます。（棟方好華）